

シンポジウム

小泉改革の検証と次期政権への課題

-日本の行財政改革の軌跡とその成果を踏まえて-

入場無料

主催：社団法人行革国民会議・政策創見ネット 21

日時：2006年7月21日（金）13時-16時45分

会場：食糧会館 2F 大会議室

（東京都千代田区麴町 3-3-6:Tel. 03-3222-9621）

小泉改革では、「改革なくして成長なし」「官から民へ、国から地方へ」のキャッチフレーズの下、さまざまな改革が実施されてきた。しかし、これらの改革は問題提起としての役割は果たしたものの、具体的な制度設計においては、十分な成果をおさめておらず、未完の改革であると言える。そこで、本シンポジウムでは、これまでの小泉改革の評価を行うとともに、次期政権の課題を示したいと考えている。

13:00-14:00：基調講演

「小泉時代の「政治の構造改革」と今後の道筋」

講演者：曾根 泰教 慶應義塾大学総合政策学部教授

小泉内閣の下で、政府と与党の関係は一変し、政策形成過程は大きく変化した。しかし、それに対する抵抗もあり、今後の帰趨は定かではない。経済財政諮問会議の役割の変化を例に取りながら、小泉内閣の政治手法を分析し、今後、議院内閣制における政府と与党との関係はどのようにしていくべきなのか、さらには、国会・野党の役割についての道筋を示す。

14:00-15:45：パネルディスカッション

「小泉改革の検証と次期政権の課題：改革の継承とイノベーションに向けて」

パネリスト：赤井 伸郎 兵庫県立大学経営学部助教授
上村 敏之 東洋大学経済学部助教授
曾根 泰教 慶應義塾大学総合政策学部教授
中里 透 上智大学経済学部助教授

コーディネーター：田中 宏樹 同志社大学政策学部助教授・政策創見ネット 21 共同代表

社会保障改革、三位一体改革、道路公団・郵政民営化改革などの改革を、どのように評価するか。また、次期政権の第一の課題である財政構造改革をいかに進めるべきか。これらの問題について、議論をし、今後の改革の方向性を示す。

16:00-16:45：総括

「1980年代以降の行財政改革の軌跡と教訓」

講演者：並河 信乃 社団法人行革国民会議理事兼事務局長

土光臨調から小泉改革まで、何を達成し、何が積み残されてきたのか。また、その時代毎の要求に、それぞれの改革は応えてきたのか。今後の改革の継続に向けて、これまでの行財政改革の軌跡から得られる教訓を示す。

（なお、行革国民会議では、土光臨調から小泉改革までの文献収集・整理をトヨタ財団の助成の下に進めている）

お問い合わせ先：社団法人行革国民会議

Tel:03-3230-1853 Fax:03-3230-1852

email address : gyoukaku@tokyo.email.ne.jp

※参加のお申込は、上記 Fax 番号にて承ります。なお、電子メールでも構いません。

※メールの場合は、件名を「小泉改革シンポジウムの件」としていただきますと幸いです。

※このまま FAX にて、お送りください。
03-3230-1852 (行革国民会議事務局行き)

参加お申し込み書

※複数名でのご参加の場合は、それぞれお名前をご記入ください。

お名前： _____

所属： _____

連絡先： 電話 - - FAX - -

E-mail: _____ @ _____

会場へのアクセス



[電車でお越しの場合]

麹町駅より徒歩1分
(地下鉄有楽町線) (1番出口)
半蔵門駅より徒歩5分
(地下鉄半蔵門線) (2番出口)
永田町駅より徒歩5分
(地下鉄有楽町線・半蔵門線・南北線)
赤坂見附駅より徒歩10分
(地下鉄丸の内線・銀座線・南北線)
四ツ谷駅より徒歩10分
(JR中央線・地下鉄丸の内線・南北線)
市ヶ谷駅より徒歩10分
(JR線・地下鉄有楽町線・都営新宿線・南北線)

[バスでお越しの場合]

麹町4丁目より徒歩2分
(都バス 晴海埠頭-四ツ谷駅前 都03系統)
(都バス 三宅坂-新宿駅西口 宿75系統)
(都バス 新橋-大久保駅 橋63系統)

社団法人行革国民会議 : <http://www.mmjp.or.jp/gyoukaku/>

1981年から86年まで臨調、行革審の会長を勤めた故土光敏夫氏は、行政改革を推進していくためには、国民が関心を持ち議論に参加することが必要であると説いてやみませんでした。このよびかけに応じて、1983年7月、土光氏を中心に各界の有識者によって行革国民会議が設立され、民間の立場から政府の行革推進の実行状況を監視するとともに行革の議論をさらに深化・発展させる活動が始まりました。

発足以来、国民会議は国鉄改革、農政改革、政治改革、財政改革、地方分権、行政手続法、情報公開など行革の重要な課題をとりあげ、一般市民が自由に参加できる公開討論会を連続して開催するなど、行財政改革についての論議がさらに深まり、筋の通ったものとなるように努力してきました。また、行革関連の新聞記事データベースを88年から作成し、毎年8月にはそれを取りまとめ加工した「この1年間の行革の歩み」を発表し、ホームページにも掲載して、誰もが自由に利用できるようにしております。さらに現在、土光臨調から小泉改革までの文献収集・整理をトヨタ財団の助成の下に進めております。

政策創見ネット21 : <http://www.policy-innovation.net/>

わが国の政策立案・形成・決定の成果を検証し、評価することで、その問題点を指摘し、解決に向けた処方箋を構想することで、有権者に政策の選択肢を提示することを目的として作られた政策提言グループです。

本グループは、政治、行政、メディア、コミュニティなど社会の様々なチャンネルを通じて、よりよい政策形成の支援、社会各層の政策知力の向上や政策判断の支援材料の提示についての活動により、見識ある民主主義・成熟化した世論に支えられた民主主義(Well-Informed Democracy)の実現を目指しています。

研究活動の成果として、2006年6月には、『小泉改革とは何だったのか-政策イノベーションの次なる指針』(上村敏之・田中宏樹編著、日本評論社)を出版いたしました。